

繊維月報

vol.604
2010
since 1960

8

毎月1回発行

発行：伊藤忠商事株式会社 繊維経営企画部
大阪府中央区久太郎町4-1-3
TEL：06-6241-2027 FAX：06-6241-2008
URL：http://www.itochu-tex.net
本紙に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。osaxp-ad@itochu.co.jp

Vol.604 CONTENTS

Special Feature /	“アメリカ市場”を読む	1 - 3面
Topics /	新部長紹介	4面
World Report /	歴史豊かなパキスタンに平和を	5面
Fashion Report /	ストリートファッショントレンドの現在と次なる方向性	6面



ITOCHU Mission

Committed to the global good

豊かさを担う責任

超大国の繊維・ファッションビジネス

“アメリカ市場”を読む



2008年9月のリーマン・ショック以降、米国経済は急速に落ち込みました。しかし、2009年末ごろから個人消費を中心に復調に転じた兆候も見られます。米経済の行方について株式市場の続落、住宅着工件数の減少など経済指標の足踏みもあってさまざまな見方が交錯しているなか、ニューヨークに駐在し、米国での繊維・ファッションビジネス経験の豊富な3氏にお集まり願ひ、今後の米国経済の動向、繊維ビジネスの行方などについて語り合っていました。

出席者
(順不同)

伊藤忠商事 執行役員 繊維原料・テキスタイル部門長
伊藤忠インターナショナル会社繊維部門長 (兼) ITOCHU PROMINENT USA LLC 出向 (CHAIRMAN & CEO)

玉巻 裕章
山口 潔

進行

伊藤忠商事 繊維経営企画部長
久保 勲

リーマン・ショック前後

激震、在庫積み上がる恐怖 前触れは「ストア買い付け削減」

久保 4月にニューヨークから帰任されたばかりの玉巻さんから、米経済に関してどのようにご覧になっているのか、お話し下さい。

玉巻 4月末に丸5年の駐在を終えて帰国しました。駐在期間のうち、最初の2年間はITバブル崩壊の傷も癒えて好況をおう歌し、商売も順調でした。2007年度の伊藤忠インターナショナル会社(略称III)繊維部門もかつてない業績を収めることができました。そして2008年9月のリーマン・ショックで暗転することになるわけですが、その直前に「おやつ」と思うことがありました。今から思うとそれはあの激震の前触れだったかもしれません。

というのは、取引先の一つである全米最大の小売企業から買い付け予算削減の通告を受けました。常に右肩上がりに成長を続けていた企業からのまさかの削減で、先物契約が大きく落ち込むことになりました。それが境目となり、9月からは底がうかがいしれない状況に向かっていくことになりました。

2008年の第4四半期(10~12月)はまさに「凍りつく」といった表現がぴったりで、商売は完全に止まり、在庫が毎日どんどん積み上がっていき恐怖を覚えました。本社にもこのことを伝えましたが、当時繊維カンパニー業績は好調を維持しており、すぐには状況を理解してもらえなかった(苦笑)

久保 そうですね。日本の状況が悪化し始めたのは2009年1~3月からでした。

傷む家計のバランスシート

玉巻 GDP成長率を見ると、2008年10~12月から2四半期連続で6%前後のマイナス成長が続きました。小売りの状況を見ると、2008年9月にマイナスに転じ、以降2009年11月にプラスに転じるまで14カ月連続で昨対マイナスを記録しました。2010年1~3月には前年同期比5%増となり、とくに帰任する直前の3月は自動車・食品を除いて9.2%増を記録するなど著しい回復ぶりを見せています。

リーマン・ショック以降で顕著なのは、家計部門のバランスシートの悪化です。米国家庭の多くは不動産と金融資産を抱えています。これが傷みました。加えて日本とは異なる住宅ローンにおけるセカンドモーゲージの存在です。

セカンドモーゲージとは、物件の時価からファーストモーゲージ(最初のローン)の残高を引いた部分(エクイティー=正味価値)を担保にした借入れのことです。日本では例えば5000万円の物件が1億円に値上がりした場合、差額5000万円の利得を得ようとすれば売却するほかにありません。米国の場合、値上がり部分の80%を再び借りられる。つまり不動産価格が下落すると、不動産を担保とした金融が収縮し、それが家計部門に打撃を与える結果となります。住宅市場は政策効果の息切れが指摘されており、景気回復へのインパクトは限定的といわざるを得ないでしょう。

「景気回復」実感乏しい

山口 玉巻さんの後任として12年ぶりのニューヨーク駐在です。10年一昔と言いますが、変わりように驚いています。

経済動向ですが、グラス(2面)にある「米GDPと短期金利の推移」をご覧くださいと一目瞭然です。2000年にITバブルが弾け、金利が極端に低下します。現在も低水準にあるわけですが、「不況金利が低下、景気回復金利が上昇」という図式により、好不況の時期がよく分かります。2003年からは、それまでのGDP成長率(右肩上がりの直線)より大きく成長していますが、これはサブプライムローンに代表されるような実体経済に比べて無理な経済成長を誘発した結果であり、その後の金融危機を誘い、今なおその後遺症に悩んでいるといえるでしょう。現状、底は打った感触ですが、回復のペースは

遅く、しかも弱い。

例えば経済指標を見ると、2008年度に4000億ドルだった米財政赤字は2009年度に1兆4000億ドルを超え、現在も同じレベルで推移しています。家計と地域経済のバランスシートの悪化が顕著で、それが気がかりです。米国のGDPはその70%が個人消費、20%が公共投資、残る10%が民間設備投資です。いずれも当面活性化する気配は見られず、経済の行方については楽観視できません。

地方経済は深刻な影響を受けていることを実感します。米経済もとくに雇用の面で地方の中小企業を支えている側面が強いのですが、商業用不動産がこげつき、地方銀行の体力低下が著しい。中小企業の疲弊、失業者の増加といった悪いスパイラルから脱却できていません。

オバマ政権は「過剰消費の抑制」「貯蓄増」「輸出促進」によって経済のバランスのとれた

成長を目指しています。とくに今後5年間で輸出を倍増し、200万人の雇用を創出する「全米輸出イニシアチブ」を立ち上げ、輸出を増加させる大方針を打ち出していますが、具体的な施策はまだこれからの段階です。

住宅市場の息切れ、家計バランスシートの悪化、地方経済の疲弊、失業率の高さ、輸出拡大実現の不透明さ……などを勘案すると、まだ数年は茨の道が続く可能性が大きい。4~6月の市場のムードは一進一退。「景気回復」の実感は乏しいですね。

衣料品小売市場

低価格志向がまん延 浸透するネット通販

久保 衣料品小売市場に目を向けたいと思います。すべての小売りが悪いというわけではないようですが、



タイムズスクエアにはミュージカルやForever21などファッションブランドの大きな看板が立ち並び

